# パオちゃん's EYEôô

## 2017年12月1日 発行 No. 9

# 三葉虫(さんようちゅう)

三葉虫はアンモナイトとともによく知られている化石です。今月はこの三葉虫についてご紹介 します。

三葉虫は古生代のカンブリア紀~ペルム紀(5億7000万年前~2億4500万年前)の3億年 以上にわたる長い間、世界の広い海域に生息していた節足動物で、化石の研究によって約1万種 の種類が知られています。

三葉虫の体は背側がよろいのような多くの節からなる殻でおおわれ、化石として残っているの は殻だけの場合がほとんどです。殻は頭部、胸部、尾部に分かれ、成長とともに脱皮をくりかえ していたようです。また腹側からは多数のあしが出ていたようですが、化石としてはほとんど残 っていません。なお、化石として発見されるのは脱皮した後の殻もかなり多いです。大きさは頭 部の先端から尾部の先端まで1cmに満たない小さなものから、70cmに達する大きなものまで 様々ですが、一般的には2~7cm 程度のものが多いです。

三葉虫が海底を歩いた跡が化石として見つかっていることから、三葉虫は海底で生息していた ようですが、浅い海に生息するものや深い海に生息するものなどさまざまで、海底の泥の中の微 生物を食べていたと考えられています。また、魚などの外敵に襲われると体を丸めて防御の姿勢 をとったようです。

岡山県内からは井原市芳井町日南の3億年前の石灰岩などの中からわずかながら1~2cm程 度のものが見つかっています。



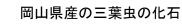
三葉虫の化石



体を丸めたまま化石になった三葉虫



頭部の一部



武智泰史(地学担当)

パオちゃんズアイるのに関するお問い合わせは

### 倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-6-1 電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには いろんな情報がいっぱい♪ 「倉敷市立自然史博物館」で 検索してみよう! パオより

